WBM のイネーブル化と起動

Guard の WBM にアクセスするには、まず CLI を使用して Guard 上で WBM サービスをイネーブルにし、クライアントの IP アドレスから WBM サービスへのネットワーク アクセスを許可します。この作業を完了すると、クライアントの Web ブラウザを使用して、Guard の WBM にネットワーク接続経由でアクセスできます。

この章は、次の項で構成されています。

WBM へのネットワーク アクセスの設定

WBM サービスをイネーブルにし、WBM サービスへのネットワーク アクセスを許可するには、Guard の CLI を使用します。必要な設定変更を行うには、Administration ユーザ特権レベルまたは Configuration ユーザ特権レベルの権限を持つユーザとしてログインする必要があります。Guard の CLI へのアクセスと使用の詳細については、『*Cisco Guard Configuration Guide*』を参照してください。

Guard の WBM サービスをイネーブルにするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　コンソールまたは SSH 接続を使用して、Guard の CLI にログインします。

ステップ 2　グローバル モードから設定モードに変更します。次のコマンドを入力します。

```
admin@GUARD# configure
```

ステップ 3　WBM サービスをイネーブルにします。次のコマンドを入力します。

```
admin@GUARD-conf# service wbm
```

ステップ 4　リモート クライアントから Guard へのアクセスを許可します。次のコマンドを入力します。

```
admin@GUARD-conf# permit wbm ip-addr [ip-mask]
```

引数 *ip-addr* および *ip-mask* には、クライアントの IP アドレスを指定します。

次の例を参考にしてください。

```
admin@GUARD-conf# service wbm
admin@GUARD-conf# permit wbm 192.168.30.32
```

Guard 上で WBM サービスへのネットワーク アクセスを設定した後は、CLI を終了し、クライアントの Web ブラウザを使用して WBM を起動することができます。

WBM の起動

WBM をクライアントから起動するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　Web ブラウザを開いて、HTTPS（セキュア）を使用して Guard の IP アドレスを入力します。

```
https://Guard-ip-address/
```

Guard-ip-address 引数は、Guard の管理用 IP アドレスです。

Guard WBM のログイン ウィンドウが表示されます。

ステップ 2　ユーザ名とパスワードを入力し、**OK** をクリックします。WBM のホーム ページが表示されます。

Guard への接続に失敗した場合は、次のトラブルシューティング ヒントを確認してください。

- 有効なユーザ名とパスワードを入力したことを確認します。
- 正しい Guard 管理用 IP アドレスを入力したこと、および HTTPS を使用していることを確認します。
- クライアントと Guard のネットワーク接続を確認します。
- SSH を使用して Guard に接続できることを確認します。この操作により、クライアントと Guard 間のネットワーク接続が確認されます。
- CLI を使用して、Guard 上で WBM サービスがイネーブルになっていること、クライアントの IP アドレスからのアクセスが許可されていることを確認します（「WBM へのネットワーク アクセスの設定」の項を参照）。